

鹿児島国体 U-16 を視察して

R4.10.21 四種技術部 上野

会 場 熊本県大津町運動公園球技場

◇少年男子

【Aパート】

【試合結果】

1位	鹿児島	8 / 2 2	鹿児島	2 - 1	熊本
2位	佐賀	8 / 2 3	鹿児島	3 - 0	佐賀
3位	大分	8 / 2 4	鹿児島	2 - 1	大分
4位	熊本				

※ 3勝 勝ち点9 本国体出場

◇少年女子

【Aパート】

【試合結果】

1位	鹿児島	8 / 2 2	鹿児島	4 - 0	宮崎
2位	宮崎	8 / 2 3	鹿児島	1 - 0	大分
3位	大分	8 / 2 4	鹿児島	8 - 0	沖縄
4位	沖縄				

※ 3勝 勝ち点9 本国体出場

～ 課 題 ～

今回、男女共に全勝で、栃木県にて行われる本国体出場を決めた。鹿児島県チームは、四種から連携をとりながら継続して指導を行っている。また、トレセン活動の集大成として位置付けをし、国民体育大会への挑戦を行っている。来年度は、鹿児島での国民体育大会が開催される予定である。

今回、国体に召集された選手の多くは、四種年代からトレセン活動に参加している。鹿児島県チームは、九州ブロックでも、選手育成の観点から補欠0を掲げ、全ての選手にスタメンの機会を与えて3試合を戦った。中学生も召集されていたが、出場機会も多く、スキルアップの良い機会と捉えることができた。

今後も、テクニカルで全国でも戦えるような選手を継続して育成するためにも、四種年代からの質の高いトレーニングを行う環境や指導者の育成が必要である。

- ・四種から三種。三種から二種への選手の情報を含めた円滑な引き継ぎ。
- ・「鹿児島らしさ」を育むような一貫した指導法の確立。
- ・個人戦術の習得。関わり続けられる選手の育成。
- ・パーフェクトスキルの獲得。
- ・今年度から少年女子が始まったことで、改めて四種女子→三種女子の引き継ぎ。選手が活動できる場（チーム）を増やすことが必須。

九州トレセン交流会について

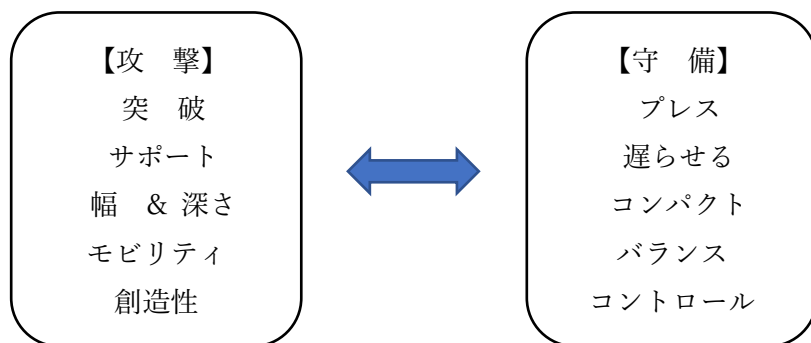
会 場 鹿児島県南さつま市吹上浜海浜公園サッカー場
レギュレーション 試合時間は30分ゲーム（15-5-15）で行う。各チーム8名参加。（各県16名）
総当たり 全7試合

【試合結果】

10 / 8	鹿児島A 3-1 大分A	鹿児島A 1-2 沖縄A	
	鹿児島B 1-2 大分B	鹿児島B 1-0 沖縄B	
10 / 9	鹿児島A 0-2 宮崎A	鹿児島A 0-3 福岡A	鹿児島A 1-1 熊本A
	鹿児島B 0-1 宮崎B	鹿児島B 4-1 沖縄B	鹿児島B 1-2 熊本B
10 / 10	鹿児島A 0-0 長崎A	鹿児島A 1-1 佐賀A	
	鹿児島B 2-2 長崎B	鹿児島B 3-1 佐賀B	

～ 課題（他県と比較して） ～

- ・個人戦術（プレーの原則）の習得と徹底



- ・関わり続ける選手の育成（意図的なプレーの継続）

（改善）

集団でボールを奪う。
素早い攻守の切り替え。
ハードワーク

（課題）

幅と深さをイメージして攻撃を行う。
パスの質（スピード・方向・タイミング）
意図的な攻撃
シュートスキル
パーフェクトスキル

【課題改善のためには・・・】

- ・選手の攻守における優先順位（個人戦術を習得）
- ・ポジションの意味、理解
- ・4局面（自チームがボールを保持・攻撃→守備への切り替わり・相手チームがボールを保持・守備→攻撃への切り替わり）において役割が変わることや瞬時に「今」何をすべきか対応できる選手の育成。
- ・常に「観る」ことを意識して行うトレーニングの実施
- ・コーチングの質の向上（コーチ・選手2）

【ナショナルトレセン参加選手】 2 / 25（土）～26（日） FP 3 2名 GK 4名 （女子枠有り）

- ・永山 大陽（N・ユナイテッド）
- ・原田 響（鹿児島ユナイテッド）
- ・盛 陽海（FC龍郷）

※鹿児島 次点選手②